

## 介護福祉士の養成課程の教育内容

4年生大学における介護福祉士養成施設のあり方

文京学院大学 人間学部人間福祉学科

綿 祐二

### 1. カリキュラムに関する提言

#### (1) 介護「福祉士」としての資質向上

- ・ソーシャルケアの理論構築（新しい学問体系の確立）

#### Definition of Social Work

The social work profession promotes social change, problem solving in human relationships and the empowerment and liberation of people to enhance well-being. Utilising theories of human behaviour and social systems, social work intervenes at the points where people interact with their environments. Principles of **human rights and social justice** are fundamental to social work.

ソーシャルワーク専門職は、人間の福利（ウェルビーイング）の増進を目指して、社会の変革を進め、人間関係における問題解決を図り、人びとのエンパワーメントと解放を促していく。ソーシャルワークは、人間の行動と社会システムに関する理論を利用して、人びとがその環境と相互に影響し合う接点に介入する。人権と社会正義の原理は、ソーシャルワークの拠り所とする基盤である。

- ・福祉専門職としての資質向上

- ※ 制度の理解（介護保険改正や障害者自立支援法など）
- ※ 契約時代の介護のあり方
- ※ 利用者本位の介護技術

#### (2) 介護理論と実践の融合…実習教育のあり方

- ・介護現場からの教育要求（資料1参照）

- ・現状と合わせた「学問」…社会の現状に合った科目の教育内容の見直し  
(医行為なども含めて)

#### (3) 「介護学」の体系整理

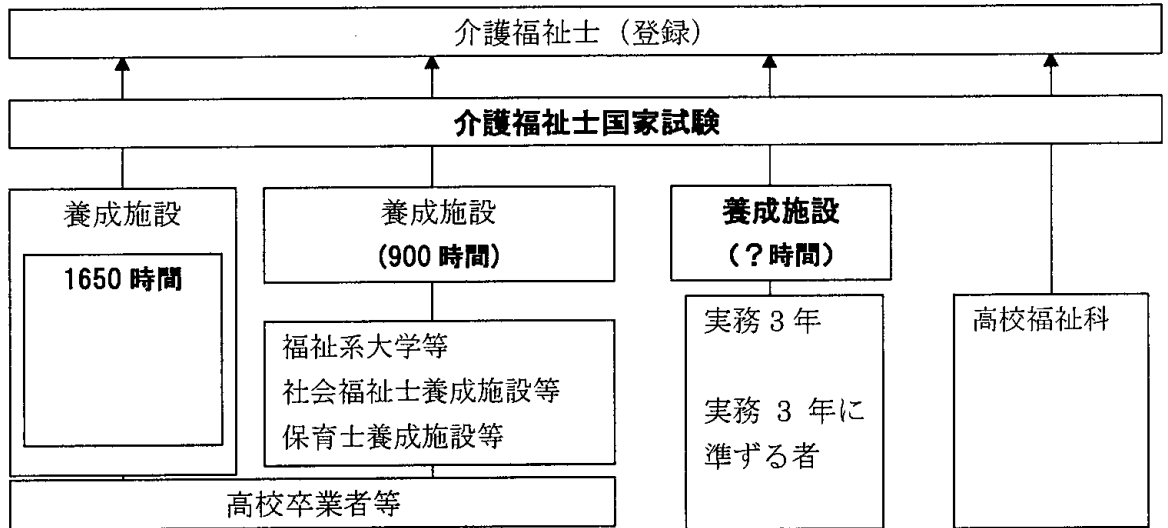
- ・「基礎介護学」「地域介護学」「老人介護学」「家族介護学」…「〇〇介護学」

## 2. 養成プロセスの提言

### (1) 介護の質の向上とは…国家資格としての位置づけ

- ・国家資格である以上、資格取得のプロセスの一定の水準を設けるべきである

<参考>



### (2) 教育時間数と内容

- ・教育の質を上げていくか
- ・教育の時間数を増やしていくか

## 介護現場が求める実習生に求める事前教育内容について

介護教育と現場の介護実践が乖離していることも問題としてあげられ、「理論」と「実践」の融合が今後の介護福祉士の養成には不可欠であると思われる。そこで本調査では、介護の現場において職員の方々が感じている、介護実習に取り組む学生に求めている事前教育等について把握し、介護現場が求める実習生の事前教育内容のあり方について検討することを目的とした。

研究の方法としては、厚生労働省から出されている通知をベースに事前教育されるべき項目を整理し、現場実習において、実習生がそれらについて事前に習得した上で実習に臨んでいるかどうかについて郵送法にて質問紙調査を行った。対象は、WAM-NET に登録されている各都道府県における特別養護老人ホーム（社会福祉法人）の介護職員 500 施設を抽出した。有効回答数 224 施設を分析対象とした（回答率 44.8%）。主な結果としては、「非常に思う」から「全く思わない」の五件法で問うたところ、全体的には事前教育内容が習得された上で、実習に臨むことができているという傾向がみられた。しかし一方で、介護技術的側面ではない「関係機関理解」や「関係法令理解」という項目においては、「習得ができていない」「どちらでもない」が半数を超える結果となった。このことについては、介護保険法の改正に伴い、利用者をめぐる状況の変化や、生活を支える専門職として諸機関の機能を理解した上での適切な連携の必要性など現場において柔軟な対応ができるよう、それらについての教育の必要性が示唆された。

実習生が各項目について事前に習得した状態で実習に臨んでいると思うかを、現場の介護職員に尋ねた。

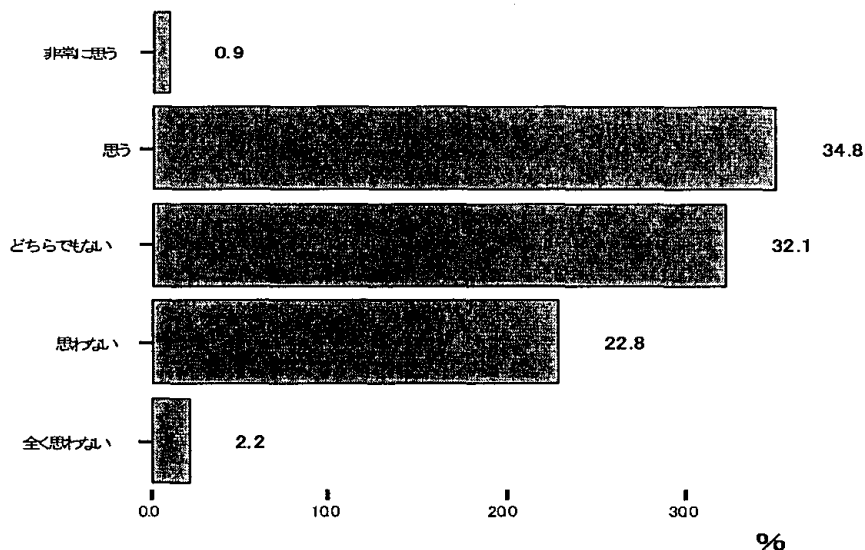


図1. 礼儀作法

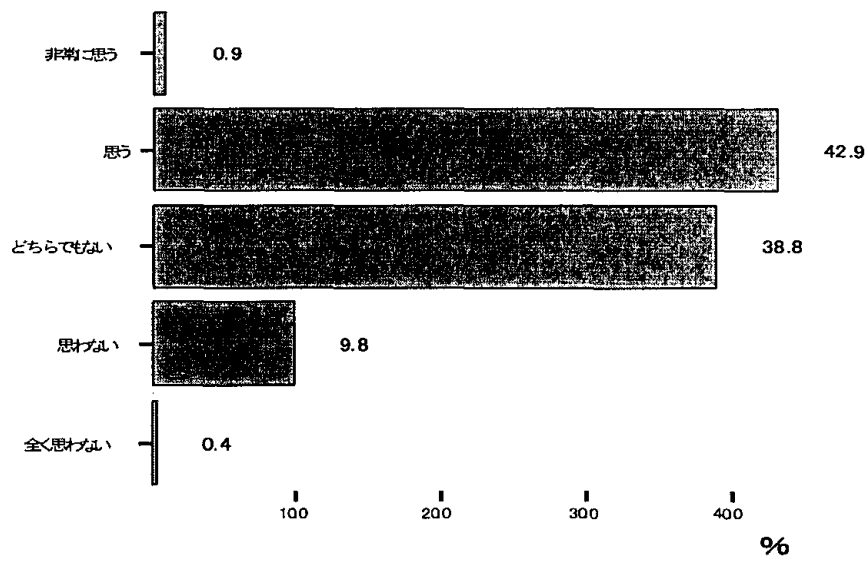


図2. 実習自覚

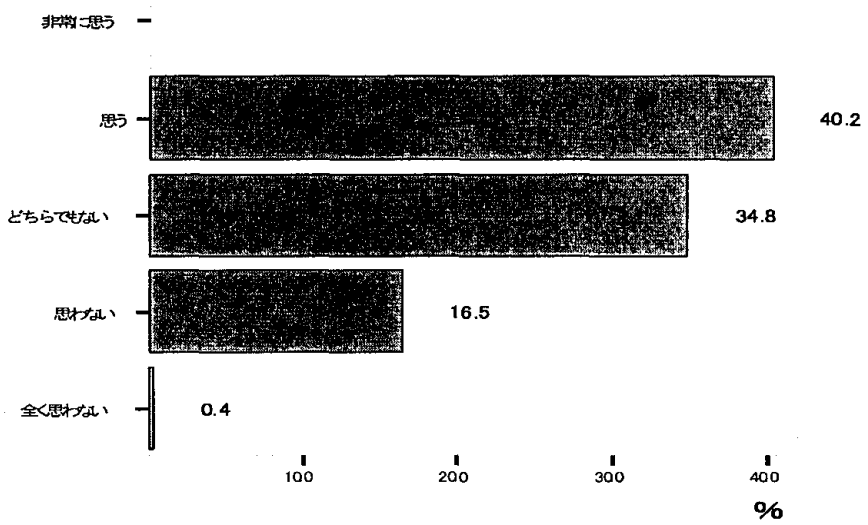


図3. 1日の目標

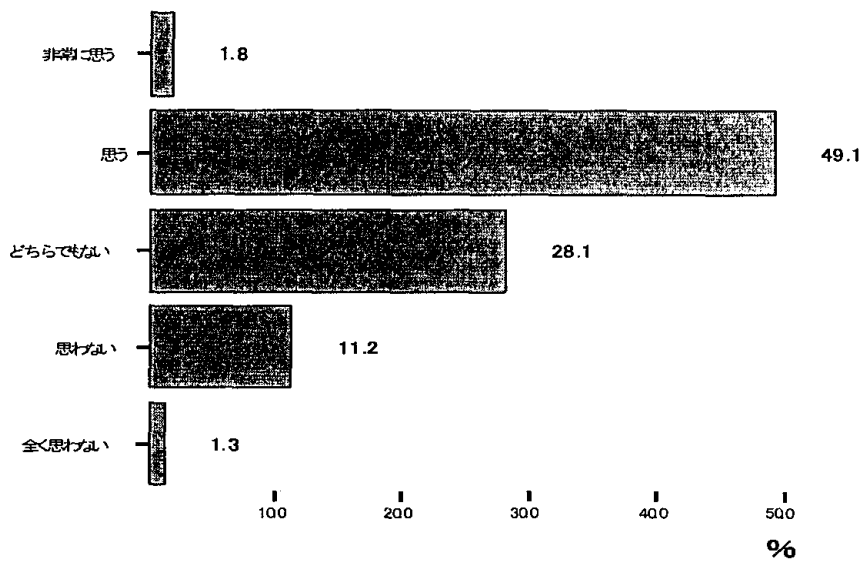


図4. 援助の基本的姿勢

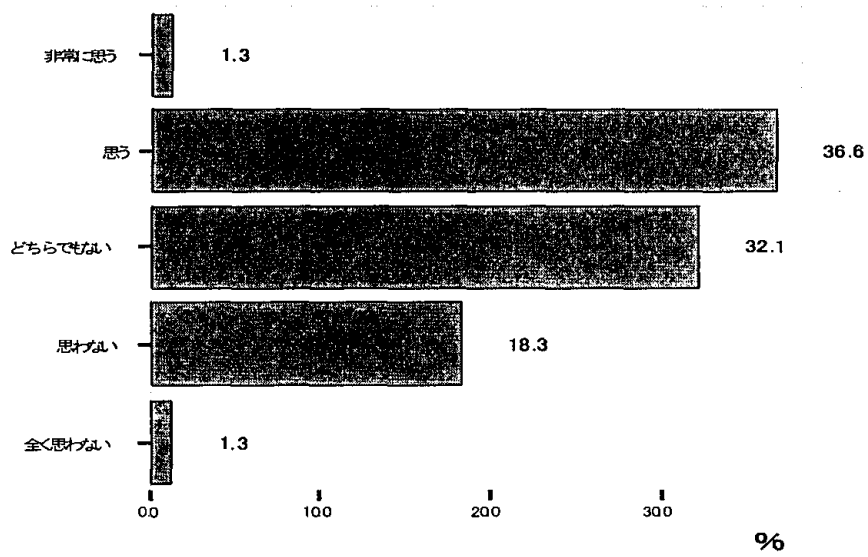


図5. 介護目的理解

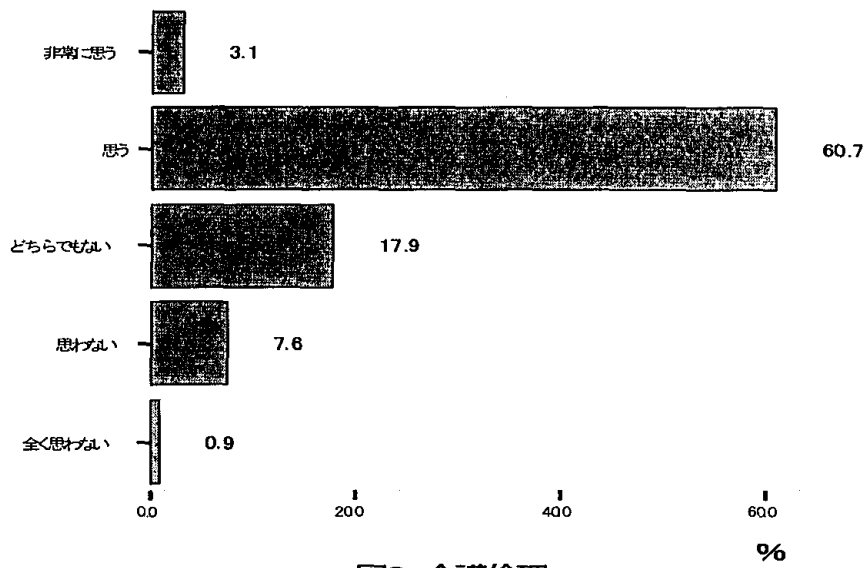


図6. 介護倫理

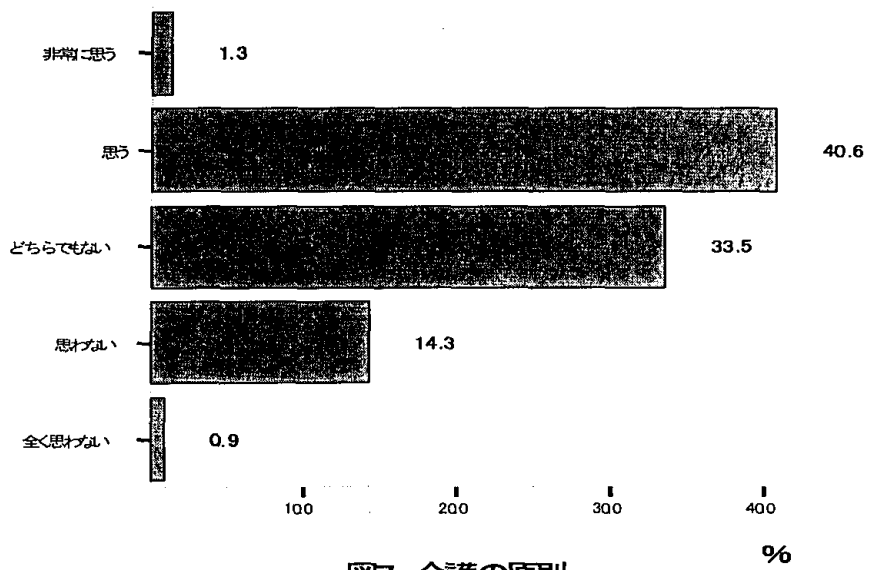


図7. 介護の原則

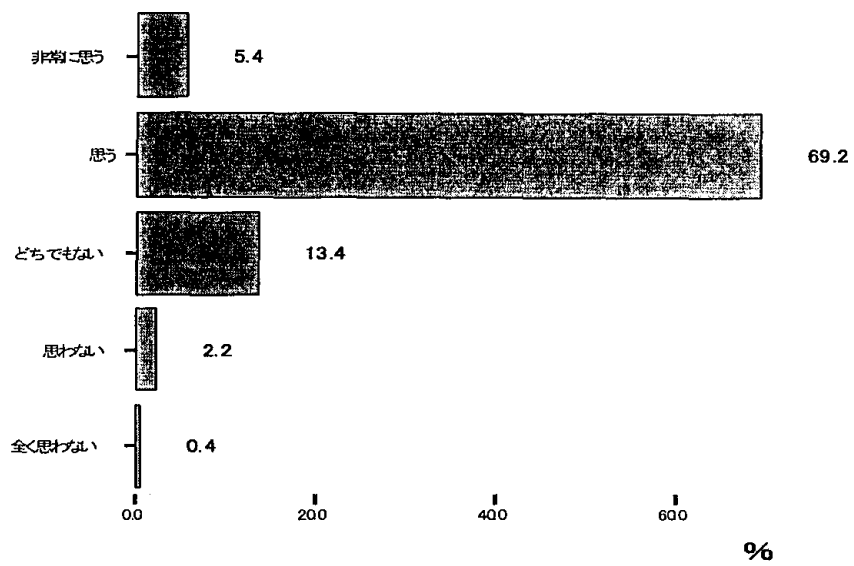


図8. 思いやり

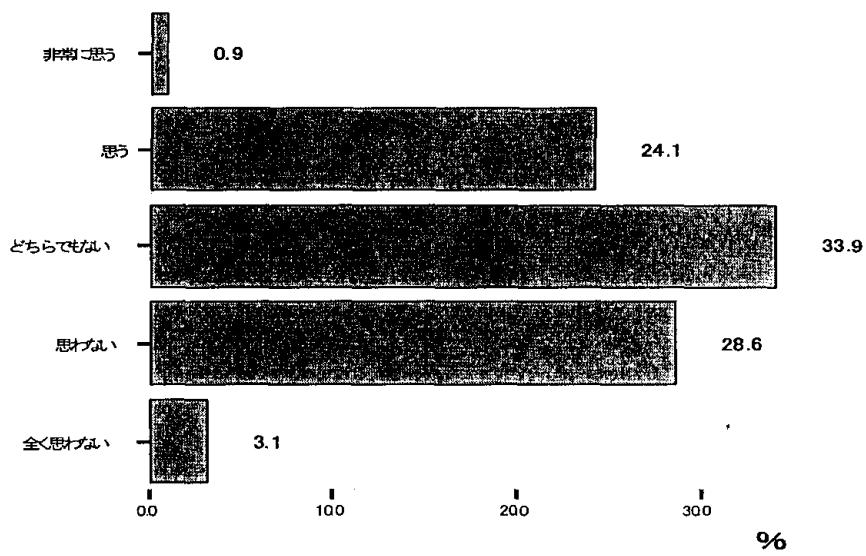


図9. 個別理解

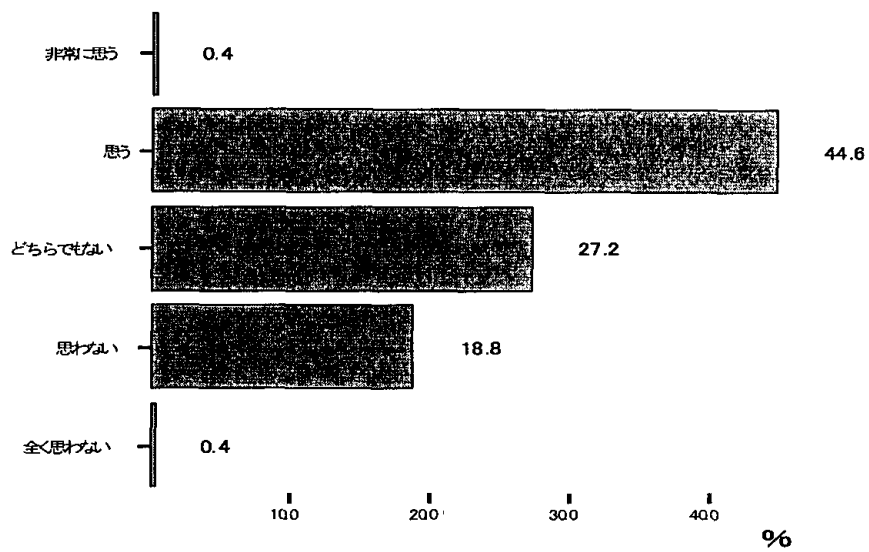


図10. 介護と看護の役割理解

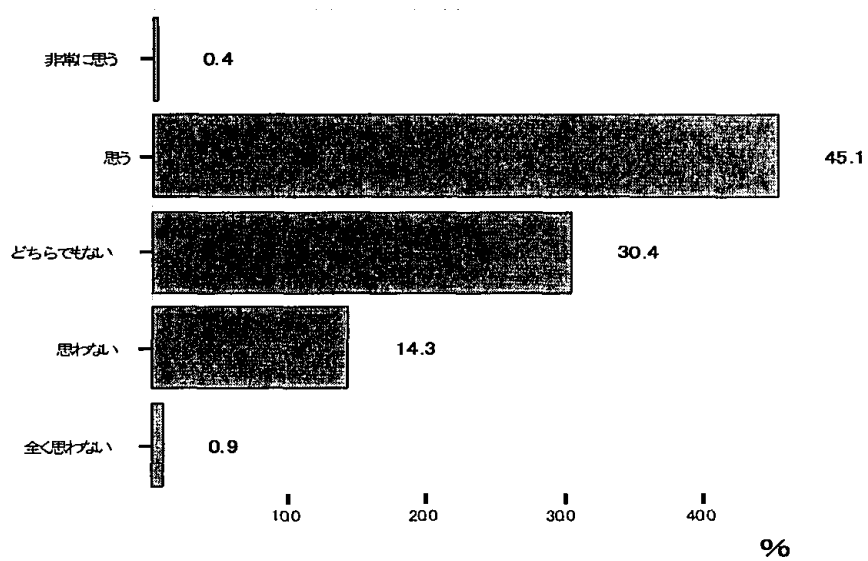


図11. 施設職員理解



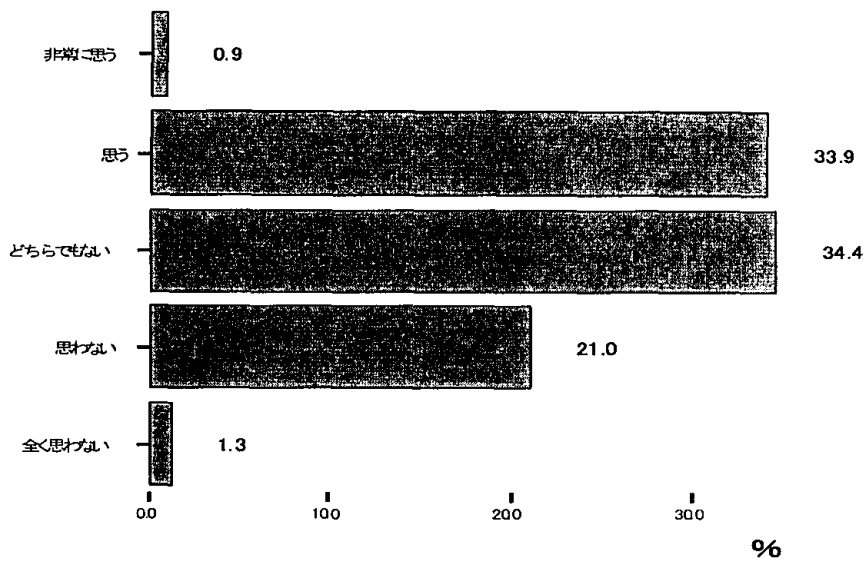


図12. 他職種連携

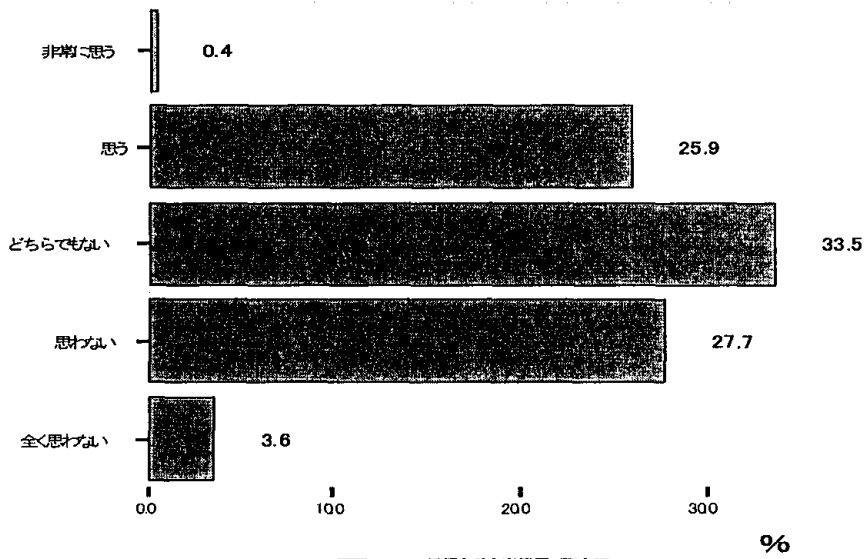


図13. 関係機関理解

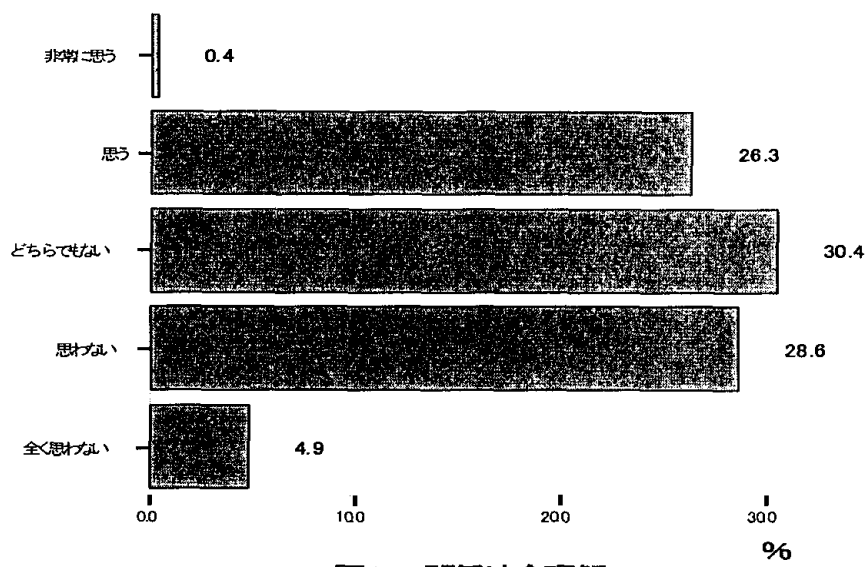


図14. 関係法令理解

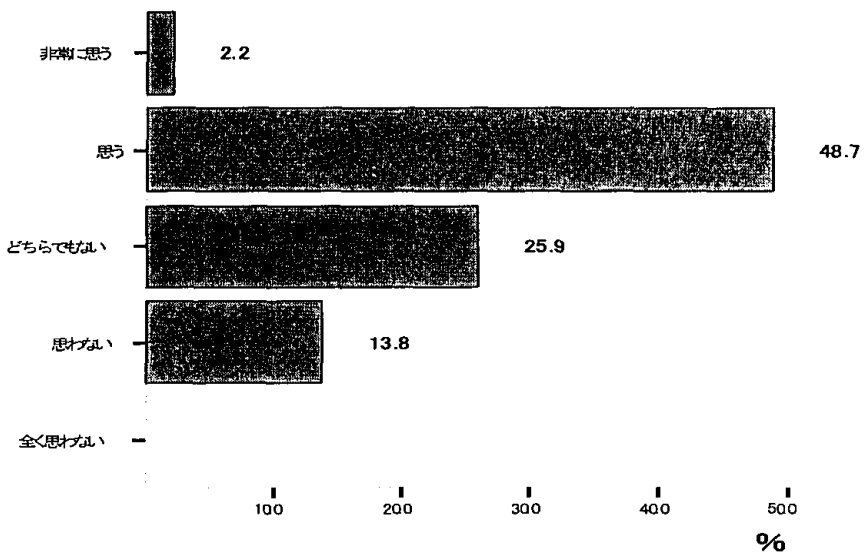


図15. コミュニケーション技法

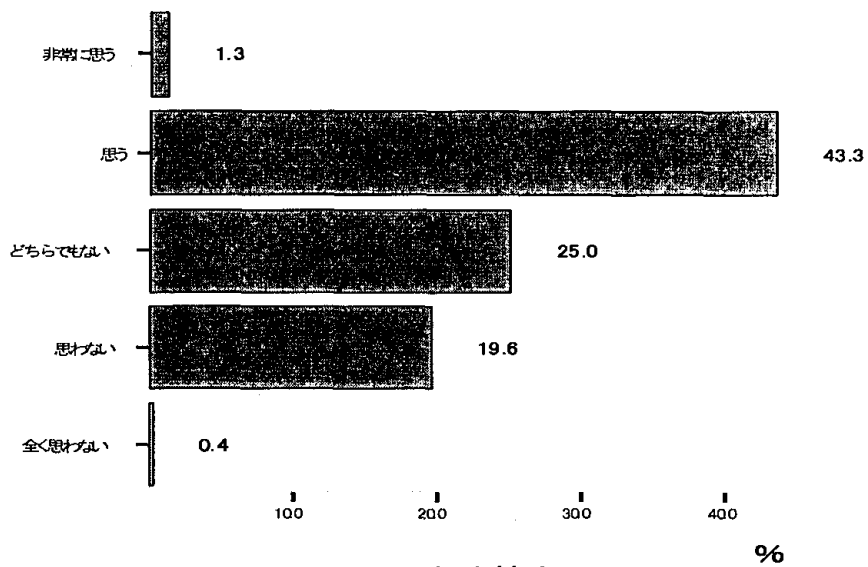


図16. 観察技法

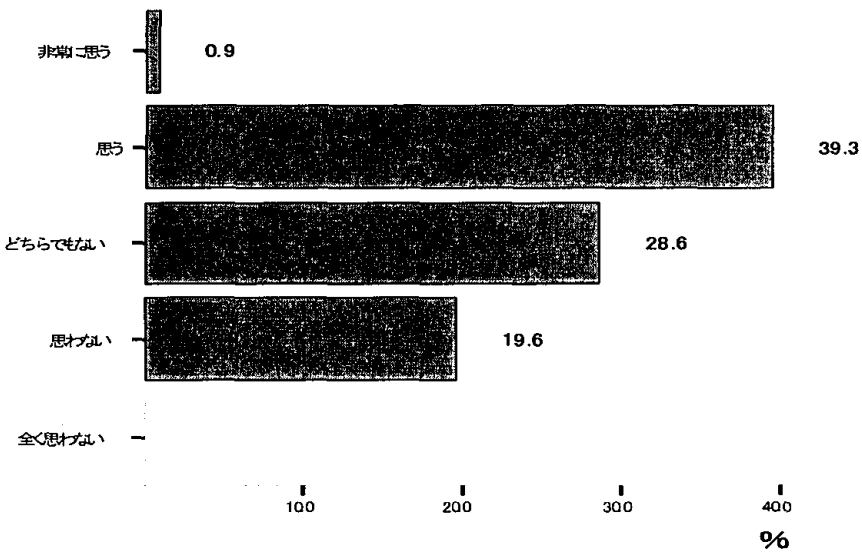


図17. 居住環境の安全性

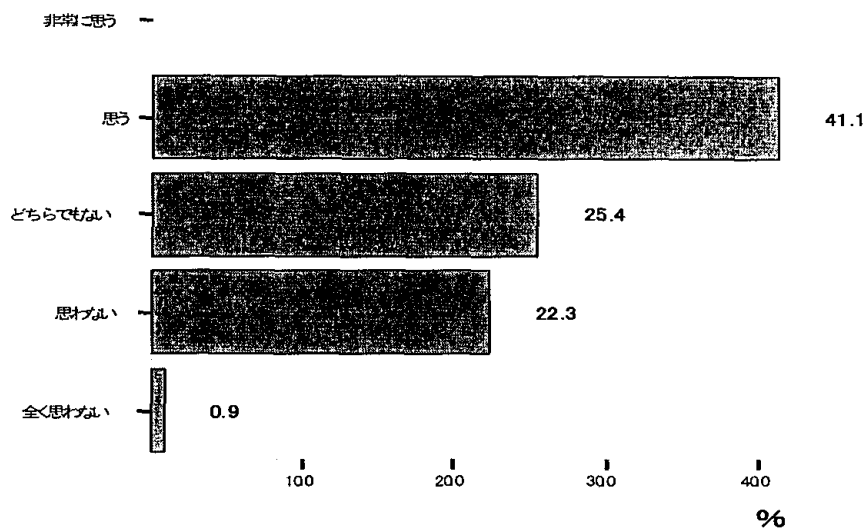


図18. 福祉用具理解

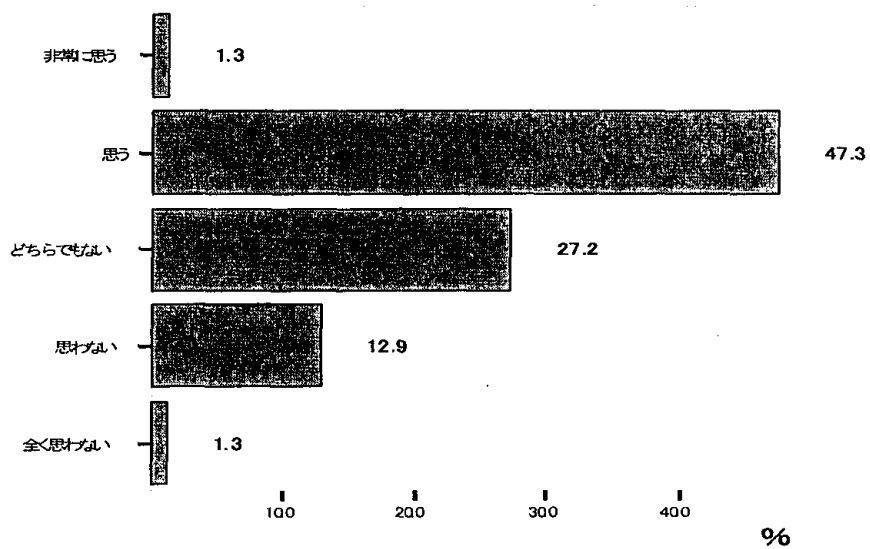


図19. 移動・移乗の技法

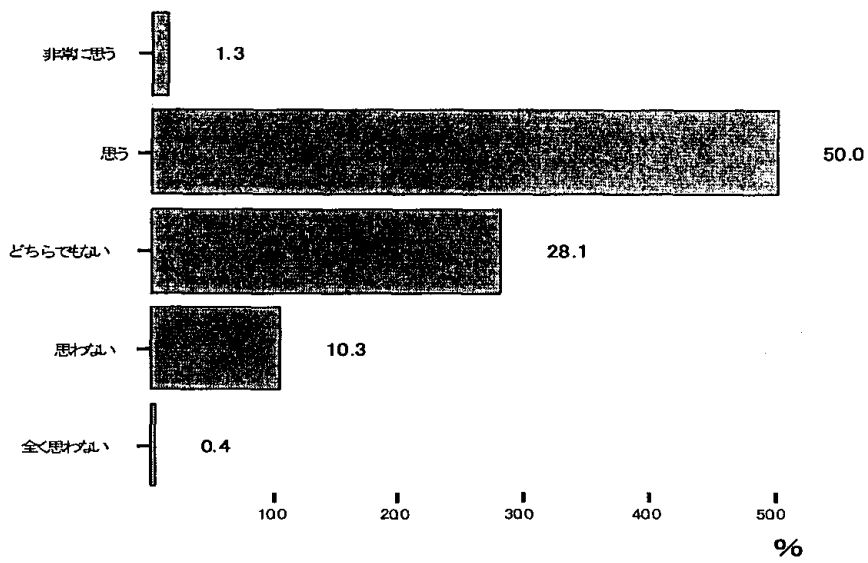


図20. 食事技法

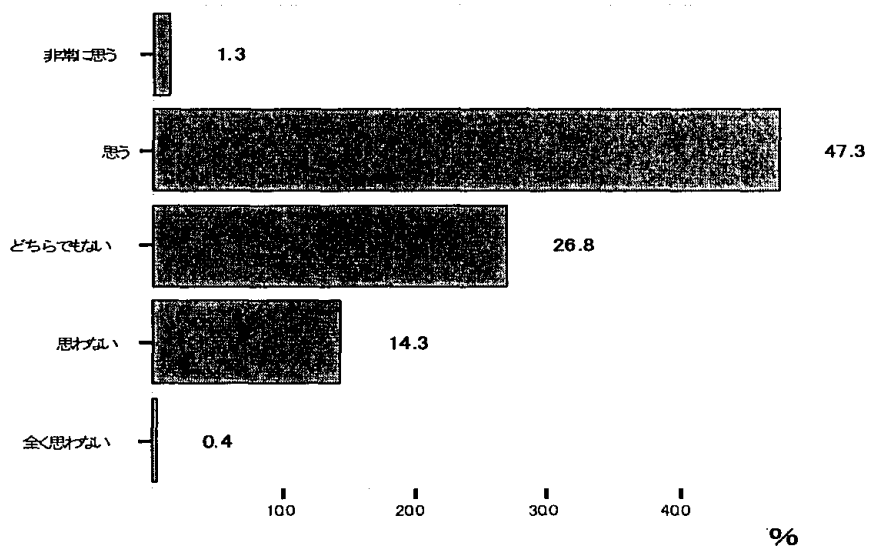


図21. 排世技法

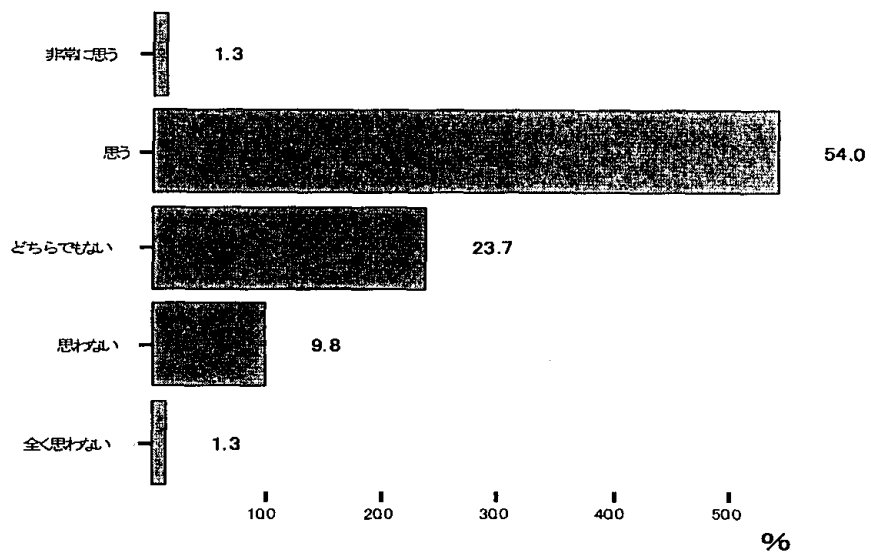


図22. 着脱技法

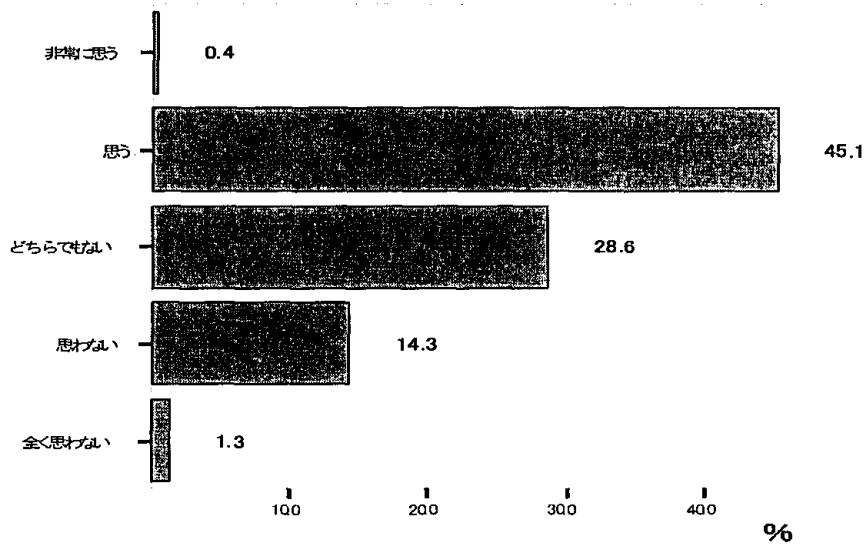


図23. 入浴技法

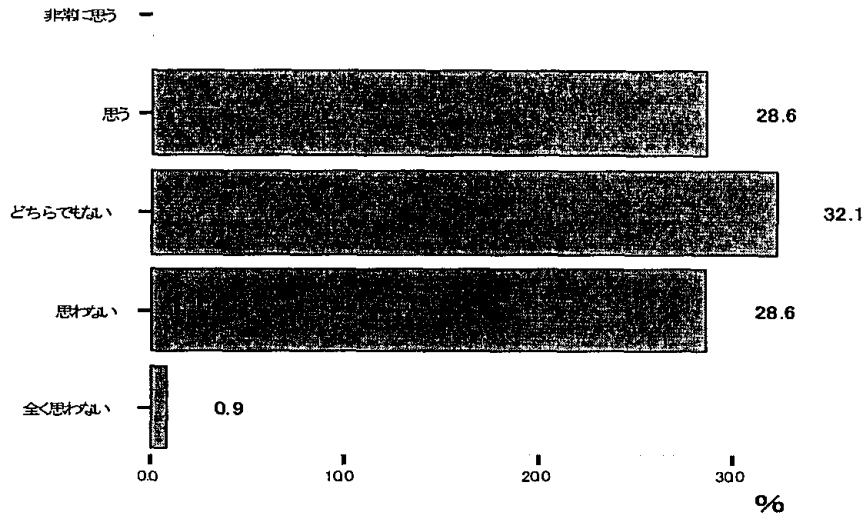


図24. 安楽技法

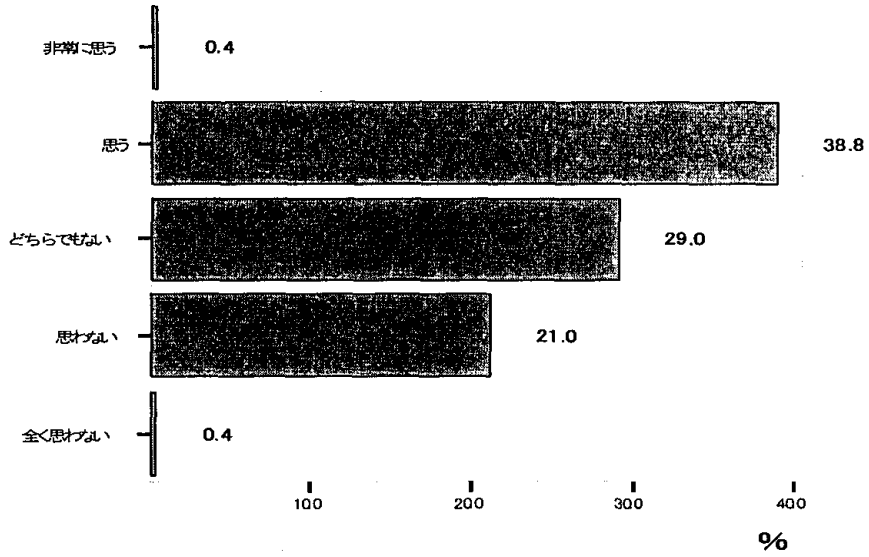


図25. 清潔技法

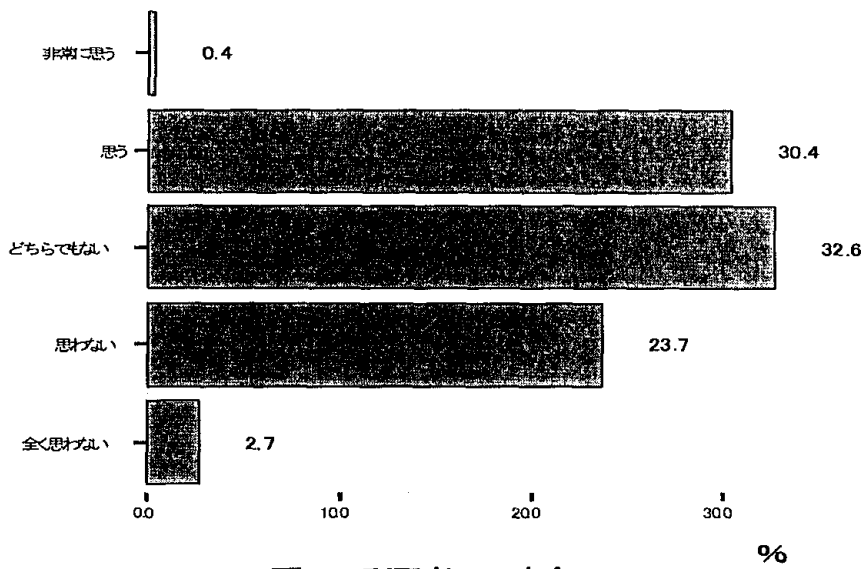


図26. 利用者への安全

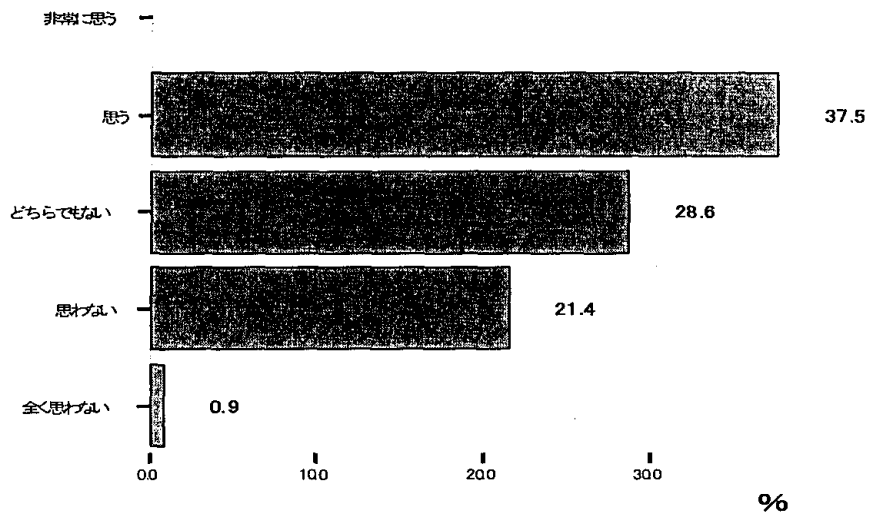


図27. 個別の介護過程



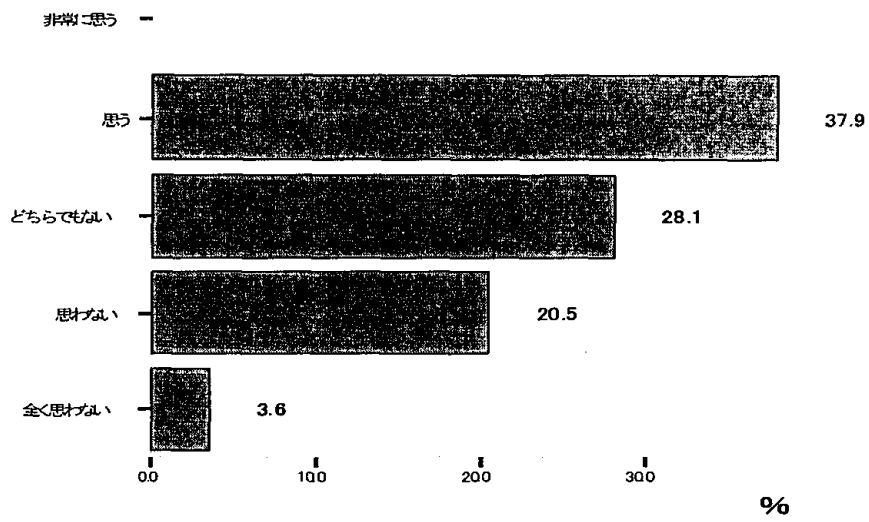


図28. 記録の方法